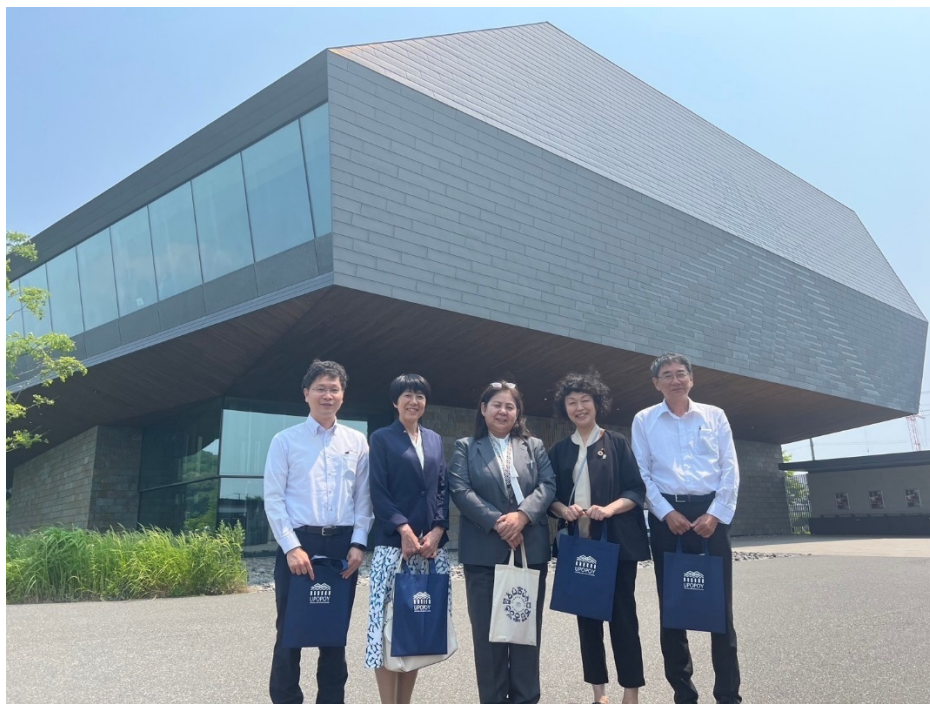


視察報告書

北海道檜山郡厚沢部町、白老郡白老町

令和6年7月9日(火)～7月11日(木)



ウポポイ(民族共生象徴空間)

松阪市議会 市民クラブ

令和6年7月23日

松阪市議会議長 坂口 秀夫 様

松阪市議会 市民クラブ 中島 清晴

令和6年7月9日(火)から7月11日(木)の間、行政視察を実施しましたので

下記のとおり報告いたします。

記

1.参加者

東村佳子 吉川篤博 橘 大介 楠谷さゆり

2.視察先及び視察事項

(Ⅰ)子育て世帯向けの移住体験事業「保育園留学」について

日時 令和6年7月10日(水) 10時30分～12時

場所 北海道檜山郡厚沢部町 認定こども園はぜる

現地視察対応 厚沢部町議会 議長 鈴木祥司 様

厚沢部町政策推進課政策推進係主幹兼係長 木口孝志 様

厚沢部町保健福祉課こども園係園長 斉藤紋子 様

厚沢部町保健福祉課こども園係主幹保育教諭 橋端純恵 様

厚沢部町議会事務局長 安達達也 様

厚沢部町議会事務局議会書記 首藤浩平 様

厚沢部町の概要

厚沢部町(あっさぶちょう)は、北海道南西部、檜山振興局南東部に位置し、農林業を主幹産業とする檜山郡に属する町である。地名の由来はアイヌ語で「アッ・サム」楡皮「ハチャム」桜鳥と諸説ある。面積は460平方キロ、人口は3,339人、町の木はクロマツ、町の花はツツジである。面積の約8割を山林が占める。亜寒帯湿潤気候または湿潤大陸性気候に属し、寒暖の差が大きく顕著な大陸性気候で、特別豪雪地帯に指定されている地域である。基幹産業は農業で稲作とメークイン、アスパラ、カボチャ、ブロッコリなどの畑作。北海道のメークインの発祥地でもある。誕生祝金は何人いても50万円、住宅新築の際、町内業者施行であれば家族構成により50～100万円、農業用機械の補助最高500万円、各種検診無料など独自の住人に寄り添った政策を展開している。

保育園留学

・認定こども園「はぜる」は平成31年4月3つの保育園をひとつにし開園した。「はぜる」のコンセプトは「世界一のこども園を作ろう」。現場の意見を最大限活かし、先進地視察の学びを取り入れ開園となる。

・「保育園留学」のはじまりは令和3年、基幹産業のメークインのPR事業で出逢った東京の食のベンチャー企業「キッチハイク」の代表が「はぜる」に興味を持ち個人的に娘さんを入園させた時の実体験がベースとなっている。住所地でない入園の広域入所手続きなど煩雑な事務が必要のない、厚沢部町に元々あった全国誰でも預けられる一時預かり制度、移住体験住宅などを活用し、7月のお試し週間一時預かり保育を代表が「保育園留学」と名付け、SNSで発信したところ、ものすごい反響となり、その最終日、「キッチハイク」から代表の体験をそのまま事業化した企画書が出され、7月実施を決め、10月クラウドファンディングで取り組みを全国にPRし、目標額の5倍の資金150万円を集め、支援者100人を得て、11月ポータルサイトが完成し、正式に募集を開始した。年度途中だった為、予算のない中でのスタートとなったが、デジタル田園都市国家構想交付金のコロナ禍で中止となったイベント予算などで半年を乗り切り、令和4年本事業で同交付金を採択され、保育園留学推進協議会を立ち上げる。町から協議会に補助金を交付、協議会は「キッチハイク」と業務委託し、本年で3年目となる。

・「保育園留学」を軸に地域の町づくりを創造する取り組みを進めるため、町は平成22年から移住体験事業を展開、移住体験住宅を整備したが、退職後の避暑地扱いにとどまり移住者は生まれなかった。0歳から向こう100年続く関係、超長期的なふるさと納税が生まれ、また訪れてみようと思える関係人口の創出につなげたいと考え、既存資源のシェアリングを大きな特徴として、保育園留学を始めるにあたって特別に整備したものはなく、移住体験住宅、収穫体験、郷土料理教室などのバラバラで動いていた体験メニューを「こどもを預ける、移住体

験住宅に宿泊する、様々なメニューを体験する」の3つをセットにして、それを保育園留学という形でパッケージ化した「キッチハイク」との連携協定を締結した。

・「保育園留学」の3つの未来という視点「子どもの未来」:幼少期に自然に触れる事で心身ともに健やかに育つ。「家族の未来」:保育園留学は親も新しい仕事や生活スタイルを体験できる。「地域の未来」:日本中が人口減の中、移住者ばかりの獲得ではなく短期であっても必ず町に人が来るサイクルができれば町にいる人口としてカウントできる。

・「保育園留学」の仕組み:こどもは在園児数70~120人に対して10人前後。ポータルサイトの運営は「キッチハイク」が担当し、宿泊施設の調整、園との調整、保護者との面談、こどもの特性(アレルギー等)、パッケージ料金の一括管理(宿泊施設、「はぜる」、「キッチハイク」等への支払)を行う。全国で初めての保育園留学はメディアにも多数取り上げられ、保育園学推進協議会国土交通大臣賞受賞、利用者の口コミなど町が費用をかけて広報をせずとも国内や国外にも広がっている。

・「保育園留学」と厚沢部町への影響保育園留学をパッケージ化し、可視化、ブランディングし、窓口を「キッチハイク」に一本化にすることで利便性、安心感を高める。令和4年度:1週間の受け入れが多く、園の行事に関係なく150組のべ208人受け入れた。令和5年度:2週間受け入れをベースに園の行事と調整し131組181人の受け入れ実績で、リピート希望率は97%以上と高かった。地域活性・雇用創出にもつながり、地元への経済効果として令和4年度は1組当たり20万円で合計3,000万円、令和5年度は1組あたり10~15万円で合計2,000万円の経済効果を地域内で循環させる仕組みとなっている。ふるさと納税旅先納税の導入。1万円で3千円の電子クーポンが付与され地元の加盟店で使用できる。また留学先納税もでき、保育園留学の費用として使用できリピーターにもつながる。この旅先納税は初年度半年で200万円、次年度は600万円近く集まる。オンライン診療キッズドクター(大人も)の導入で処方箋が次の日薬局に出され、仕事を休んで病院に連れていく負担を減らせる。また大人も利用できる。

・「保育園留学」のさらなる進化保育園留学コンソーシアムの立ち上げはクオリティの向上と良い情報の共有、地域の未来を創造する文化として根付かせておくため。ダイバーシティドアの導入は外国語の教師だけでなく、子ども達に多様性の日常をつくる、保育園の働き手、移住者増や国内外からの受け入れ対応に活かしている。

・今年度より、おむかえテイクアウトを導入し、地元の食材を兼ねて夕食の総菜を1品150円で事前申し込みをすると保護者のお迎えの時に受け取れるしくみで、小学校にも拡充予定である。保育園留学の寮の整備を行い、交付金で2棟建築し、あと2棟整備予定である。所有も運営も「キッチハイク」が請負い、管理をする事で委託せず自立できる形にする。今後ランニン

グコストをかけず土地賃借料や固定資産税が町に入る仕組みを創出している。徹底的にこども目線の住宅にし、保育園留学の住宅として何も持たずに来て賃貸に切り替え小学校に上がるまで住むこともできる。終了するとそこでまた次の保育園留学の用途に戻す柔軟な運用も検討中である。

・「保育園留学」は次の都市を創造する地域の家族と繋がりをつくる移住となると、ものすごくハードルが上がり負担が増えてしまうので、町の取り組みでも結果がでなかった先に必ずしも移住がすべてではないと考えた。必ず町に人がいる、4軒の住宅の稼働率が100%であれば、こどもを保育園に預け、親は仕事をし、地元の経済を回してくれる家族の関係人口となる。人が呼び込めるコンテンツを用意し、きちんと受け入れられるような体制をつくり、「はぜる」を舞台に取り組んでいく。

所感

厚沢部町の保育園留学は先進的ですし素晴らしい取り組みであった。関係人口や交流人口の考え方や取り組みは、より具体的でおいに参考になった。移住を長期でなく短期の連続という、個性的な考え方は、他所との大いなる差別化で強みだと思う。子どもたちにとっての環境、保護者にとっての入園手続きや住み始める時の煩わしさの軽減、先生方の働く環境はまさにカスタマーファースト全開で、最高の環境だと感じた。学んだ事は松阪市型移住促進に大いに活かしていけると感じた。



(Ⅱ)ウポポイ民族共生象徴空間について

日時 令和6年7月11日(木) 9時30分～11時30分

場所 北海道白老郡白老町 ウポポイ(民族共生象徴空間)

現地視察対応

公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部 村木美幸 様

白老町の概要

白老とは、アイヌ語で「虻(あぶ)の多いところ」という意味の言葉「シラウオイ」からきたと言われている。白老町は、北海道の南西部、胆振総合振興局管内のほぼ中央に位置し、南は太平洋、西は登別市、北は千歳市と伊達市大滝区(旧大滝村)、東は別々川をはさんで苫小牧市と隣接している。町の面積はおよそ425平方キロ。人口は15,281人、東西に細長く伸び、その面積の約75%を森林が占め、海、川、山、森と様々な自然にあふれたのどかな街である。白老の気候は穏やかで、夏は涼しく冬の積雪もあまり多くない。春と秋には豊富な自然が織りなす豊かな風景を楽しめ、四季折々の様々な表情を楽しむことができる。

ウポポイは、2020年7月12日、白老町ポロト湖畔に先住民族であるアイヌの文化振興等に関するナショナルセンターとしてウポポイ(民族共生象徴空間)がオープンした。ウポポイの主な施設としては、先住民族アイヌを主題とした日本初の国立博物館である「国立アイヌ民族博物館」、体験型フィールドミュージアムとして、古式舞踊の公演や多様な体験プログラムを通じてアイヌ文化を体感できる「国立民族共生公園」、またポロト湖東側の高台にはアイヌの方々による尊厳ある慰霊を実現するための施設がある。

視察の目的

北海道のウポポイ(民族共生象徴空間)の視察を行った。この施設は、アイヌ文化の保護・振興を目的としており、アイヌ民族の歴史、文化、伝統を紹介している。本報告書では、視察の目的、視察内容、そして得られた知見についてまとめる。

アイヌ文化の理解促進、民族共生の理念を学ぶ、将来の教育プログラムへの活用

特に、アイヌ文化を紹介するための展示やプログラム、教育的アプローチについての具体的な知識を得ることを目指す。

視察内容

施設概要

ウポポイは広大な敷地に多くの展示施設や体験プログラムを有している。主な施設には、国立アイヌ民族博物館、国立アイヌ民族公園、伝統的なアイヌの家屋「チセ」、そしてアイヌ文化の実演を行うステージがある。

展示内容

博物館では、アイヌの歴史、工芸、衣装、言語などが豊富に展示されている。特に印象的だったのは、アイヌ民族の独自の信仰や生活様式が詳細に紹介されている点である。また、最新のデジタル技術を駆使したインタラクティブな展示もあり、訪問者がアイヌ文化に触れる機会が提供される。

体験プログラム

ウポポイでは、多彩な体験プログラムが用意されている。例えば、アイヌの伝統工芸品作りや楽器演奏、舞踊の実演などがある。これらのプログラムは、実際に手を動かすことで理解を深めることができ、教育的な価値が高いと感じた。

スタッフとの交流

視察中には、ウポポイのスタッフと直接交流する機会もあった。彼らから、施設運営の背景やプログラムの設計意図について詳しく話を伺うことができた。特に、教育プログラムの構築においてどのような工夫がなされているか、どのように訪問者の学習効果を高めるかについて具体的なアドバイスを得ることができた。

得られた知見

教育的アプローチの参考

ウポポイでの展示やプログラムは、視覚的・体験的に学ぶ要素が強く、教育現場においても大いに参考になると感じた。特に、インタラクティブな展示や体験プログラムは、学習意欲を喚起し、理解を深める上で効果的である。

民族共生の理念

ウポポイは「民族共生」をテーマに掲げており、異文化理解や共生の重要性を強調している。これは、多文化共生社会を目指す上で重要な機会を与えてくれた。具体的には、異文化に対する尊重と理解を深める教育プログラムの必要性を強く感じる事ができた。

地域との連携

ウポポイは地元のアイヌコミュニティと密接に連携しており、地域の文化を保護・継承する取り組みが行われている。これは、地域社会との連携が教育プログラムにおいても重要であることを教えてくれた。

所感

今回のウポポイ視察を通じて、アイヌ文化の豊かさや教育的価値を再認識することができた。ウポポイでは、アイヌの歴史や伝統、芸術など、さまざまな側面から文化を学ぶことができ、特に印象深かったのは、アイヌ文化が今もなお進行形で発展しており、新しい展示が常に追加されている点である。松阪市においても、様々な文化的施設をさらに活用していけるよう、また歴史や文化の伝承の維持と、さらに観光とも結びつけて発展させていけるよう、議会としての役割も感じる場所であった。

